



「人間力について～ 私たちの本当の力」

先日、あるアンケートで「今の時代に不安を感じるか？」という問いに90%以上が「不安を感じる」と答えたという調査結果を見た。確かに不安だ。未知のウイルス、先行きの不透明感、不安材料は枚挙にいとまがない。中でも深刻なのは、人との付き合い方がこれまで通りにいきそうもないことへの不安ではないか。

皆さんは「D3444」という、われわれのご先祖様にあたるであろう猿人の骨格標本をご存じだろうか。東欧で出土したこの骨は、現代人にいろいろなことを教えてくれる。中でも私が驚愕したのは、この固体は歯が抜け落ちた状況下で十数年生きていたということだ。

野生の世界で歯の喪失は死を意味すると聞いたことがあるし、原始的な生活を送る当時の社会には高い医療技術や制度的社会保障があったと

も思えない。にもかかわらず彼らは生き延びた。

手に入れた食べ物を細かくすりつぶし、食べやすいようにして与える。身近に助け合う存在と生活習慣があったということか。これは想像の域を超えないが、それで困難を乗り越え生き延びたとするならば、われわれは学ぶことが多い。

現代社会システムの中には多くの競争原理が働き、直線的かつ性急に成果を追い求める中で、人々は何かにいら立ち、そして恐れている。そのような今だからこそ、「D3444」から教わったことをいま一度考えたい。

身の回りに、私の力を必要としている人はいないか。私の困難を手助けしてくれる人はいないか。そのようなパートナーが私たちの中に必ずいるはずだ。互いに寄り添うことで困難を乗り越えた経験を持つわれわれは、今こそ「共に生きる」という方法で乗り切らなければならない。それこそが一番の武器だ。われわれにはまだその助け合いのDNAがあると信じている。

たかみ・だいすけ 日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。39歳。